

## 議員研修会 (10月2日)

○議員 12 名、事務局 3 名

令和2年度熊本県町村会議員研修会が10月2日(金)、熊本県立劇場で開催された。当日は、防災システム研究所長の山村武彦氏を講師に迎え、「これからの防災のあり方」と題して講演があった。

熊本県は、平成24年九州北部豪雨災害、平成28年熊本地震、また今年発災した令和2年7月豪雨など多くの被害が発生。また、今年は新型コロナウイルスも猛威をふるっており終息の見通しも立たない状況下にある。村でも、特に甚大な被害を受けた、九州北部豪雨災害、熊本地震における教訓をもとに災害に強い村づくりに取り組んでいる。

今回の講演では、「大規模災害に学ぶ個人と自治体の防災・危機管理」、「複合災害(感染症×大規模災害)」、「命を守るスマート防災訓練」、「互近助と防災隣組で災害に強いまちづくり」など項目ごとに詳しく説明があった。その中でも特に印象に残った言葉が「互近助」である。



講演後、講師の山村氏と

互近助(一部抜粋)～防災システム研究所所長 山村 武彦

ひとは一人では生きていけません。可能な限り自分のことは自分でした上で、それでも対応できないときは、隣人や行政に助けを求めていいのです。誰でも病気になるときがあります。つらい時は愚痴をこぼし、悲しい時は泣いていいのです。地域でも職場でも隣人同士どこかで迷惑をかけ合い、助け合いながら生きているのです。それがお互い様です。隣人が困っているな、変だなと思ったら、傍観者にならず、近くにいる人がためらわずに声を掛け、互いに近くで助け合う。同じ時代、同じ地域に住む者同士、運命共同体の互近助なのです。みんなが互近助付き合いを実践していけば、これからもずっと住み続けたいまちになるのです。

### 【復興・地方創生対策特別委員会】

#### 立野復旧現場視察 (10月2日)

○委員 11 名、復興推進課 2 名、事務局 2 名

熊本地震で甚大な被害があった阿蘇大橋西側～山腹復旧現場の視察研修をした。当日は、山頂で国土交通省復興事務所より現場状況の説明を受けた。山頂までの道路工事を現在施工中で、完了後は観光を目的とした整備等を検討しては、などの意見も出ていた。



### 【阿蘇立野ダムみらい活性対策特別委員会】

#### 立野ダム現場視察 (10月20日)

○委員 11 名、建設課 2 名、事務局 2 名

現在、工事が実施されている立野ダム現場の視察研修をした。今回は、全議員にて10月1日より始まっているダム本体の打設現場、またリムトンネル内の状況等を視察。打設は現場にてコンクリートを作り、ケーブルクレーンで運搬する施工方法。令和5年3月には本体の完成予定を目指しており、現場では24時間体制で実施している。リムトンネルは、そのまま残るとのことで、今後多目的に活用してはなどの意見も出ていた。

